

# 池庄町住み続けたいまちづくり委員会〈まとめ〉

## 【趣旨】

全国的な流れと同じく、池庄でも市の平均を上回って少子高齢化が進んでいます。

こうした中、住みなれたこの池庄で、穏やかに幸せに、そして安心して暮らしていきたい。そして「ふるさと池庄」が子や孫の世代まで続いていってほしい。これは、みんなの願いです。

そんな地域を創っていくためには、今、どんな方向で進んでいけばよいのか、何をしなければならぬのか、10年先の将来を見据えて、みなさんと一緒に考えてました。

## 【開催経過】

日 時	場 所	内 容
9月11日(日) 19:30～21:00	池庄公民館	①趣旨の説明 ②まちの現状について
10月22日(土) 19:30～21:00	池庄公民館	①アンケート(案)の作成
11月19日(土) 19:30～22:00	池庄公民館	①湖東地区・池庄町の現状と10年後に向けた視点 ②10年後、理想の池庄について
11月27日(日) 19:30～21:30	池庄公民館	プロジェクトチームと町内の団体とで意見交換①
12月10日(土) 19:30～21:30	池庄公民館	プロジェクトチームと町内の団体とで意見交換②
12月18日(日) 19:30～22:00	池庄公民館	①前回の振り返り ②10年後、理想の池庄町とそれに向けた取組みについて ③その他(アンケートの回収状況)
1月5日(木) 19:30～21:30	池庄公民館	自治会新年総会で検討内容・アンケート内容を報告し、議論
2月4日(日) 19:30～21:30	池庄公民館	①前回の振り返り ②10年後、理想の池庄町に向けた具体的取組みについて
2月26日(日) 16:00～21:30	池庄公民館	①池庄町まち歩き ②前回の振り返り ③10年後、理想の池庄町に向けた具体的取組みについて

## 【委員名簿】

氏 名	備考
HP掲載 非公開	
	湖東図書館館長
自治会長	
副自治会長	
会計	

## 【湖東地区・池庄町の現状と10年後に向けた視点】

### 《湖東地区》

- ・人口は減少、世帯数は増加の傾向（1世帯あたりの人数が減少）
- ・人口：10年後＝▲8.3%、35年後＝▲23.5%
  - ⇒ 人口減少を前提としたまちづくり
- ・高齢者の単独世帯（1人暮らし）世帯の比率が増加
  - ⇒ 身近な地域でどのように支えていくか（生活支援・福祉介護）
  - ⇒ ボランティアからコミュニティビジネスへ！？
- ・農業は、大半が小規模の個人経営、従事者の8割は55歳以上
  - ⇒ まちづくり活用としての、農地、森林

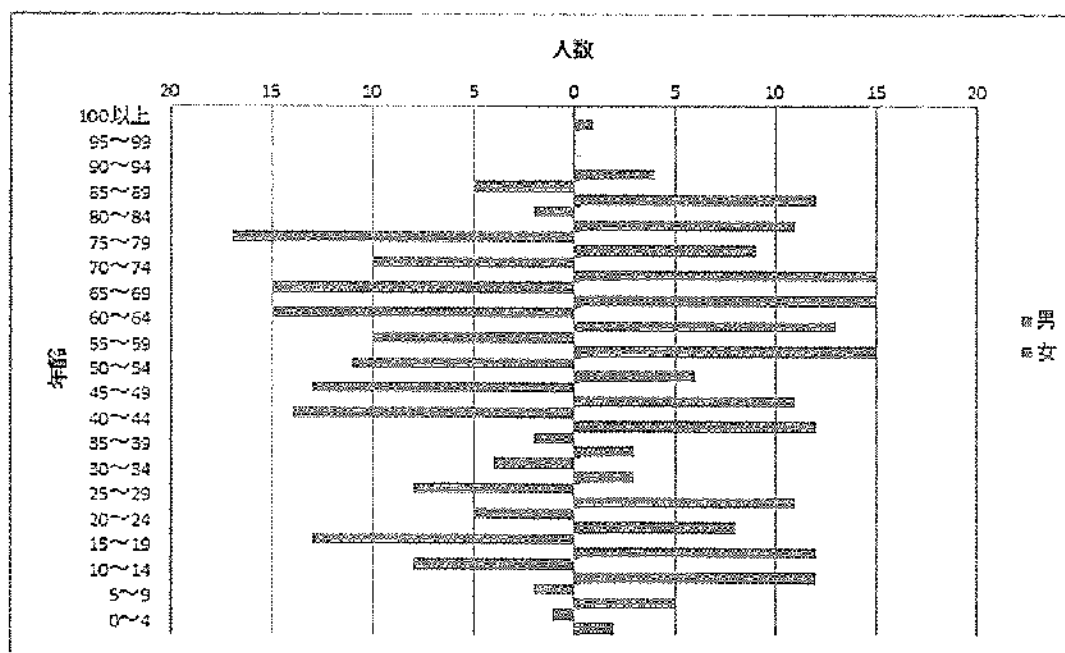
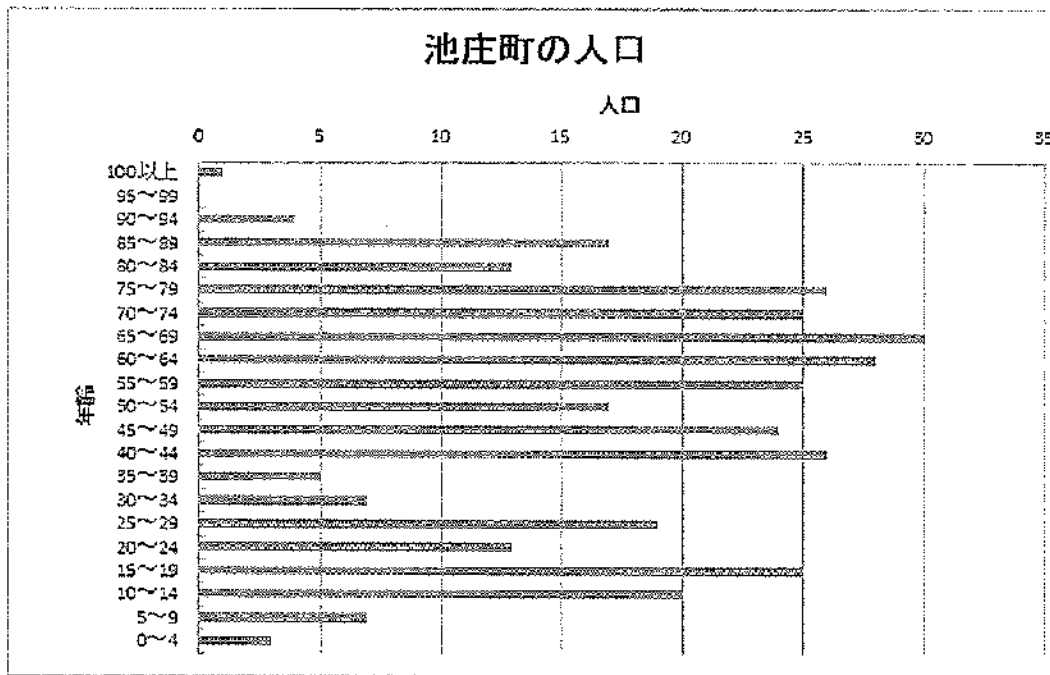
### 《池庄町》

- ・98世帯、335人、平均年齢50.7歳、高齢化率34.6%・・・H28.4.1現在
- ・人口の特徴
  - ・60代・70代＝非常に多い
  - ・40代とその子どもである10・20代＝意外と多い
  - ・30代とその子どもである10歳までの子＝極端に少ない
  - ・空き家
    - ・現状：8軒
    - ・75歳以上のみで居住の家：10軒
    - ・70歳以上のみで居住の家：7軒

# 池庄町の人口(自治会加入者)

H28. 4. 1現在

	世帯数	人口	65歳以上人口	高齢化率	平均年齢	高齢(単身)世帯		高齢(夫婦)世帯		※55歳以上のみの世帯
						①	内75歳以上	②	内75歳以上	
合計	98	335	116	34.6%	50.7歳	10	6	11	3	15
男		155	49	31.6%	50.1歳					
女		180	67	37.2%	51.5歳					
1世帯あたり		3.41人		※ 高齢・・・65歳以上						



## 【10年後、理想の池庄町とそれに向けた取組みについて】

### 《理想の姿：議論のまとめ》

#### ① 子どもや若い世代が多く、帰ってくる地域

- ・子どもが元気に遊び、若者や若い夫婦が多い（増える）。
- ・自分の子どもが「帰ってくる」、「帰っておいで」と言いやすい。
- ・三世代家族が多い、世代を超えたつき合いができる。
- ・女性も老人も、よそ者も住みやすい。

#### ② 役員が負担感少なくできる地域（役員の負担軽減）

- ・みんなが協力・分担して自治会運営
- ・仕事と両立できる（現役でも役ができる）体制
- ・公民館事務局（館長）制度、組長・評議員制、寄合グループなど
- ・厄除大祭のあり方（負担軽減）

#### ③ 高齢者や子どもを支え、元気に交流し、助け合える地域

- ・高齢者の日常生活を気軽に支え、助け合える（高齢者への応援・協力チーム）。
- ・地域全体で子どもの見守り
- ・人の意見を聞き、後ろ向き発言（意地悪、イヤミ）がなく、前向きな発言が多い。
- ・子どもと高齢者、人と人が交わり、交流する
- ・各種団体の活発な活動

#### ④ その他

- ★農地の維持（負担少なく、田んぼができる ⇔ 耕作放棄地が少ない）
- ★空き家の活用（空き家活用を進め、危険な空き家をなくす）
- ★交通・就労向上（交通が便利になり、近くで就労できる）
- ★健康（みんな健康で過ごせる）

《理想の姿に向けて何をするか、何ができるか：議論のまとめ》

① 若い世代の増加策と空き家の活用

- ・「帰ってこいよ」の声かけと移住推進
- ・空き家の把握・活用
  - ⇒ 空き家バンク、活用システム、集い・ふれあいの場、子育て、民泊、カフェ等
- ・イベント・出身者同窓会（田んぼから交流・出会い）

◇「子ども」を大切にする・・・今いる子が、池庄を大切にし、将来住んでももらう

- ・地元への愛着の心、住民の心次第・・・
- ・池庄の魅力があるように ⇔ 「イヤ」の部分なくす（役のわずらわしさなど）
- ・世代を超えての交流、ふれあいの場 → あったかサロンで、子どもと高齢者が交流
- ・学校、周辺自治会と共同で子どもイベント
- ・田んぼ（農業）と子どもの関わり

◇「空き家」・・・新しい人に来てもらう

<全体>

- ・地域・自治会で、空き家・空き地の情報把握・整理
- ・空き家・空き地の情報発信（インターネット、HP）
- ・空き家バンクの活用・東近江市との連携
- ・地域住民が、仲介・PR

<移住>

- ・(株)パナホーム等の大企業の従業員をターゲット
- ・若い家族（田舎で子育てをしたい家族、周辺アパートの住民など）
- ・学生・若者への賃貸・・・→まちづくり
- ・農業者の移住・・・耕作放棄対策
- ・特別会計の資金を活用

<活用>

- ・古民家カフェ・地場野菜カフェ（若者）
- ・保育（延長保育、学童保育の場）
- ・イベント（高齢者と子ども、医者、お手玉、地元食材）・・・PR

◇「地域」としてできること・・・新しい人に来てもらう

- ・婚活・・・池庄のいいところ、メリットを整理してPRする中で
- ・若い世代、同級生、中堅世代のコミュニケーション、つながり
  - 自警団も切り口のひとつ
- ・自治会費等の負担の軽減
- ・分譲宅地の造成・・・農業振興地域の除外の緩和（自治会としてどう判断？）
- ・交通（バス等）の利便性
- ・就労の場

## ② 役員・行事のあり方見直し

- ・役員のある方見直し
  - ⇒ 分担、サポート（神社会）、公民館事務（報酬あり）、総当り、満点者等
  - ⇒ 委員会（あり方検討会）
- ・行事等の簡素化
  - 行事のスリム化、神社の祭のあり方、10年後の年齢構成を見ながら

### <全体>

- ・自治会・神社の役員業務の「見える化」・・・何をやるかわかるように
- ・役員業務の「分散化」・・・運動会のように
- ・自分を犠牲にしなくてもできる役員・・・外注の促進、大学生とのコラボ
- ・不公平の是正
  - やる人・やらない人あり ⇔ 全員当たる → 選挙制度改革
  - 役員を年代別にする
- ・究極のスリム化を考える（前向き）・・・しかし、理念が必要
- ・検討委員会を作ってしっかり考える。

### <自治会>

- ・公民館事務の設置
- ・報酬の増額
- ・免除申請者も果たせる役割（免除申請している代わりに〇〇）

### <神社>

- ・組長とは別に、宮世話を任命
- ・大祭の負担軽減

### <各種団体>

- ・各種団体の強化（豊楽会、婦人会、自警団、子ども会）  
→みんな入って、役割を果たす

### <風土>

- ・役員を支える気持ち・風土

### <その他>

- ・会議等の茶の簡略化、配布物の削減、募金の徴収の合理化

### ③ 地域で支えあい、助け合う風土と仕組みづくり

- ・ 民生・児童委員を補助するボランティア組織（応援・協力チームづくり）
- ・ 人を思いやる心・前向き発言できる住民の醸成
- ・ 声かけ、あいさつ、世代を超えた交流の場

#### ●住民の1人として、「できること」をやってもらう（地域への参加意識を高める）

◇ 例えば・・・

- ・ 各組から民生委員の補助者
- ・ 各組で組長の用務を分担（交通立ち番、ゴミステーション管理など）  
→ 組長の負担軽減

◇ 中堅世代（30～40代？）・・・「地域」＝「面倒くさい」

→ どのように変わっていけるか（意識改革）

- ・ 各種団体＝みんなが集える場  
→ しかし、役をしないと無関心  
→ 本当は、もちつもたれつお互い様  
→ みんなが役割を果たすことができれば・・・ ⇔ 助けてもらう経験

#### ●自治会内にボランティア組織の設置

◇ 除雪、話し相手、薬をもらいにいく等（ターゲットは主に高齢者）・・・有償

→ リタイヤした元気な方を中心に、「小さく」始める

※但し、依頼者本人の意向に沿って行う

※あくまでボランティア（一部有償）であり、各組からの強制的な選出ではない

※湖東地区で、資源ごみの回収ボランティアが始動（H28.2～）

#### ●BCP（自治会運営継続計画？）の整備

◇ 自治会としての連絡網やカバー体制の整備、自主防災組織の立直し（機能するよう）

※自治会としての最低限の基本として整備 ＝ ここから住民としての意識がスタート

★BCPとは・・・災害などの発生時に、損害を最小限に抑え、自治会の継続や復旧を図るための計画。

#### ●「集う場」を日常化する

◇ 下記のような雰囲気、公民館を開放する

- ・ 当初、「誰が来てもいいよ」「趣味をしてもいいよ」「よっといで」という雰囲気
- ・ みんなで何かをする場・・・もてなされるのではなく、例えばお菓子作りなど  
※ 現在は、一部に集うことを嫌う、冷めた風土がある???
- ※ 祭に神輿がないことの影響？みんなで祭をする感覚が薄い？昔は子ども歌舞伎？

#### ●今、やっている行事の見直し

◇ 「ちょうどよいな」の感覚が持てること

- ・ あったかサロンで、子どもと高齢者が交流

#### <その他の課題>

- ④ 農地を守る ・ 集落営農、田んぼビジネス
- ⑤ 話合いの場 ・ 無関心層を無くし、話合いの場を作り、よく話し合う。

## 《平成29年度からの展開：議論のまとめ》

### ① 若い世代の増加策と空き家の活用

- ①空き家・空き地情報の把握・整理
- ②所有者の意向確認・調整 → 「貸し」「売って」でもらえる方向で
- ③東近江市（移住補助金）、住まいるバンク（相談・紹介・仲介・マッチング）との連携  
→ターゲット：30代、農業者
- ④池庄町のHPの作成（豊国神社も含めて）：情報発信
- ⑤地域住民のPR対応・自治会としての支援制度整備（人、金、体制）

～市担当者・住まいるバンク担当者からの説明と意見交換から～

- ・ 空家の持主アンケートから、約40%は「使ってほしい」、約90%は「売りたい」  
→しかし、農地と一緒にあると、法的に売買できない
- ・ 空家バンク登録は100件
- ・ 移住の相談があるうち、60%は市内  
→永源寺等は人気あり。 →住んでいる者の価値観と、移住したい者の価値観は全く違う
- ・ 移住希望者の約90%は、「とりあえず貸してほしい」  
→古くて当然、しかし、すぐに住める家が良い
- ・ 空家バンクの取組みの中では、住まいるバンクが仲介し、自治会の人と会ってもらう機会あり
- ・ お願い事・・・持主が値段を間違えないこと（安く譲ってもらえないか）・・・固定資産税のペイ
- ・ 愛東では農業を目指した移住者多し
- ・ 湖東は、都市計画区域が非線引き・・・空家を店舗にできる
- ・ 自治会内の空家を把握し、連絡先を確認して、「空家バンクに相談したら・・・」とゆるくつなく
- ・ 自治会の強みの確認、空家の可能性を広げ、市場価値を高めることで先は広がる

### ② 役員・行事のあり方見直し

★キーワード = 分散・みんなで・理念のあるスリム化

#### ＜短期的＞

- ①夏まつり・運動会の実施（主体）・・・規約変更
  - ・ 社会体育推進委員 → 体育・文化推進委員
  - ・ 体育委員 → 体育・文化委員
- ②敬老会・他福祉関連事業の実施（主体）※民生委員とともに活動
  - ・ 自治会長 → 福祉委員
- ③公民館事務の設置
  - ・ 役割：①公民館の施設・備品・消耗品等の管理
  - ②市からの配布物の仕分け・組長への配布
  - ③簡単な資料の作成・組長への配布（自治会長の指示による）
  - ④市等への書類の提出・事業の準備（購入等）（自治会長の指示による）
  - ⑤お知らせチラシの作成（必要な時）
- ・ 勤務：週1回／半日（3時間）
- ・ 報酬：2,500円×4日／月×12ヶ月＝120,000円／年（50%は事務嘱託員報酬を充当）



＜中期的＞

役職（神社も含めた）の検討委員会を設置し、今回の委員会の議論をふまえ、12月までに具体的な内容をまとめる。

→ 平成30年度から実施

③地域で支えあい、助け合う風土と仕組みづくり

★キーワード = お互い様・おかげさま、無理のない助け合い、集い

＜短期的＞

- ①公民館事務の勤務に合わせて、公民館を無料開放
  - ・メニューは用意せず、しゃべったり、お茶を飲んだり、好きなことを・・・
  - ・たまには、「血圧測るよ」、「勉強教えるよ」、「お花教えるよ」も・・・
  - ・子ども用の絵本を設置する
- ②地域お助けボランティア組織
  - ・有志によりメンバーを呼びかけ、「小さく」始める（有償もあり）
- ③BCP
  - ・H29で自主防災計画の改訂とともに検討・対応

＜中期的＞

行事の見直し、地域への参加意識の向上については、役職（神社も含めた）の検討委員会の中で、今回の委員会の議論をふまえ、12月までに具体的な内容をまとめる。

→ 平成30年度から実施

【参考】

◆ビデオ鑑賞

- ◎伊賀市（住民自治の先進地のビデオ鑑賞）
  - ・自主防災の取組・・・自らで命を守る訓練
  - ・笑みの市・・・農作物・海産物の販売＝小遣い・・・生きがいづくり
  - ・高齢者の通院・買物支援・・・NPO など
- ★ 元気な高齢者や地域住民が、見守りや支援・お手伝い（有償）
- ★ がんばり過ぎない、しかし、あきらめない
- ★ 自分達でできることは、自分達です

◆記録写真

